

# はらじゅくかわら版



## 国立病院横浜医療センターの理念

私たちは、患者様の人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける患者様中心の医療を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ地域完結型医療を目指します。

私たちは、健全な病院運営を心懸け、患者様がより良い診療が受けられ、地域で選ばれる病院になるべく日々努力していきます。

## 第4回

## 「救急・災害医療フェア」

パネルディスカッションの一幕

日時 平成15年9月11日  
場所 国立病院横浜医療センター  
主催 戸塚区役所 戸塚区医師会  
戸塚警察署 戸塚消防署  
国立病院横浜医療センター



戸塚消防署 佐野救急第一係長  
戸塚区医師会 佐藤医師会長  
戸塚警察署 田中整備課長  
戸塚区役所 白井福祉保健課長  
国立病院横浜医療センター 藤津救命救急センター長  
国立病院横浜医療センター 田中副救急センター長  
国立病院横浜医療センター 橘田副救急センター長  
帝京大学医学部附属病院 森村救命救急医療センター講師



## 第2号 目次

戸塚医師会から  
「地域医療と病診連携」・・・1

お知らせコーナー  
地域医療連携室・・・2  
医療安全管理室「食中毒研修会の開催」・・・4

シリーズ  
職場紹介（脳神経外科）・・・4  
栄養相談（高脂血症）・・・6  
時節の病気（手関節の骨折について）・・・7

女性診療外来より・・・8  
研修だより「国立赤城青年の家研修を終えて」・・・9  
患者数の動向／編集後記・・・10  
外来診療担当医表／表紙・・・11

発行 月：平成15年10月  
発行 行：国立病院横浜医療センター広報委員会  
発行責任者：高橋 俊毅  
住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2  
電 話：045-851-2621  
F A X：045-851-3902  
U R L：http://www.hosp.go.jp/ yokoham/

# 地域医療と病診連携

戸塚区医師会長 佐藤 卓彌



私共医師会にとってもっとも重要な使命は、地域の皆さんに如何にして良い医療を提出できるかであり、そのためには医療設備の充実と優秀な医師、医療関係者の確保、研修が欠かせません。また重症患者を入院させ高度な治療を行う病院と軽症者を主に扱う診療所がそれぞれの特色を生かして連携しあい、良き医療の提供を図る病診連携の重要性は言うまでもありません。地域医療は病診連携によって左右されると言っても過言ではないと考えます。

心配されておりました国立病院統廃合問題は戸塚区にとっては良風となり、国立横浜病院が国立病院横浜医療センターとして一段と大きく生まれ変わり、新しい院長をお迎えして今後一層充実発展の緒につかれたことは地域にとっても医師会にとっても喜ばしいことでもあります。引き続き中核病院として地域医療に貢献いただけるのは何よりです。

幸い歴代の院長、各科医長を始め先生方のご尽力により、国立病院と戸塚区は勿論近隣区の診療所との診療所との病診連携は極めて良好であります。

患者さんの入院受け入れについては、かつてある研究会を通じて「先生方が入院を必要と考

えられた症例は入院が必要なのですから100%受け入れます。」とまで言って下さった医長がおられたように、満足出来る状態であると考えます。これは病院勤務の先生方の一方ならぬご努力があつて実現するもので、医療への真摯な態度、患者さんへの愛情の現れであり感謝とともに敬意を表したいと存じます。

病診連携のもう一つの柱として臨床研修会を挙げなければなりません。それぞれ専門の科の医長、医員の先生方のご参加、ご指導により、消化器病研究会、循環器病研究会、糖尿病ネットワーク、小児疾患研究会等、を通じて医師会長の医療レベルの向上に寄与していただいております。すでに200回を超えた研究会もあることがその実を物語っております。

戸塚区医師会では3年前から前会長の発案で病診連携の会の出席者名簿に出席者の顔写真を掲載して患者さん紹介の際に紹介者の顔が見えるように致しましたところ、国立病院でも早速顔写真入りの医師名簿とフルネームの外来診療担当医表を採用して配布下さり病診連携に積極的かつ細かいご配慮をいただいております。

昨近患者さんの病院志向は強まる一方のようですが、これま

での連携の次に病診の一層の機能分担がこれからの課題であると考えます。外来で忙殺されることが、より高度な検査や治療の妨げになるのではないかと心配致します。主な治療や検査の終わった患者さんを紹介医や近隣の診療所に紹介していただく逆紹介により一層の機能分担の推進を望みたいと考えます。

今後はIT技術の進歩により、診療情報の共有化等、病診連携の密度は高まり地域医療の質も向上していくに違いありません。私共医師会もIT化に乗り遅れないよう努力してさらに良い病診連携を目指し、地域医療に貢献して行きたいと考えています。



# 地域医療連携室について

現在、医療技術の進歩や高齢社会の進展で一施設において完結型の医療を求めることが困難となっています。そこで、新しい医療供給システムといわれている「地域医療連携」の構築が求められています。プライマリー・ケアの機能が発揮できる「かかりつけ医」と組織医療をになう病院との上手な連携が効率的な医療の推進につながります。その結果、質の高い医療サービスの提供と医療資源の有効活用が期待されてきます。地域医療連携室において連携システムを効率的に機能させて、地域の患者様、ご家族が安心して治療の継続と療養とができるように支援する役割を目指します。

## 1. 業務場所

地域医療連携室（管理棟2階）

## 2. 業務内容

- 1) F A Xで送信される患者紹介状の取扱（毎日）  
初診受付と紹介先診療科への患者紹介状（FAX）・カルテの搬送  
（来院日の確認と各診療科への伝達調整）
- 2) 紹介状持参患者のデータ入力（毎日）
- 3) 紹介状持参の患者に対する紹介元医師に対する「来院報告」のF A X送信（毎日）
- 4) 外来診療担当変更時に「外来診療担当表」の医師会・開業医等への発送、近隣の開業医・病院に対して当院へ患者を紹介していただくための文書等の発送（随時）
- 5) 紹介患者・逆紹介患者数の集計表の作成（科別、地域別、病院別等）及び横浜市医師会地域医療連携センターへの集計表の送信（月初め）
- 6) 逆紹介患者票の送信（毎日）
- 7) 超音波検査（腹部・甲状腺・頸動脈）、CT・MRI・RI検査、脳波検査及び放射線治療の他施設からの予約受付（随時）、同初診受付と紹介先診療科への患者紹介状（FAX）・カルテの搬送
- 8) 上記に係る検査レポートの送付（随時）（同集計業務）
- 9) 毎月の「宿日直勤務表」の救急隊への送信（月末）



写真左から  
中川医療社会事業専門員  
泉医事専門官  
室長 西山診療部長  
笠原統計病歴係長  
辻地域連携室員

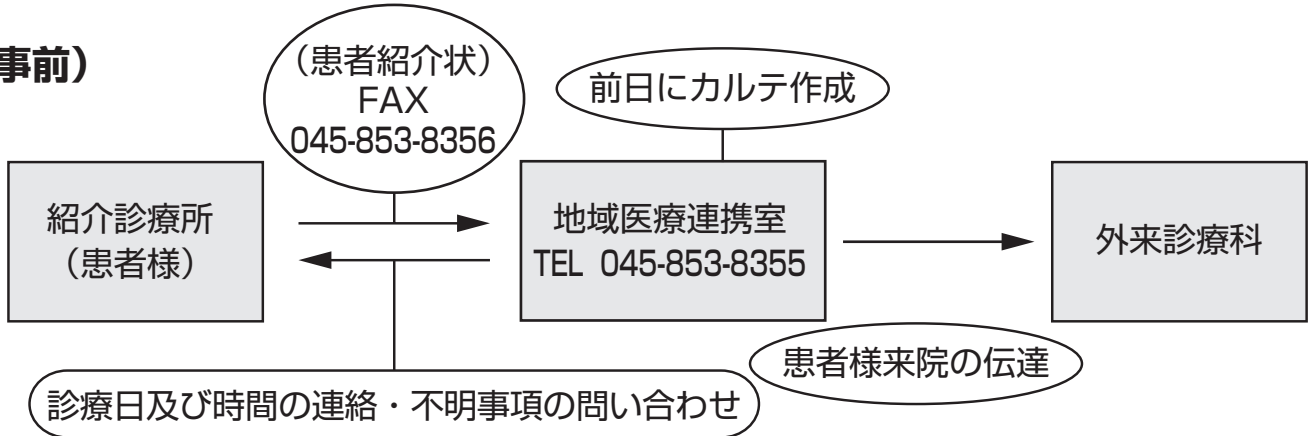
**地域医療連携室**

TEL. 045-853-8355  
FAX. 045-853-8356

内線（2275）

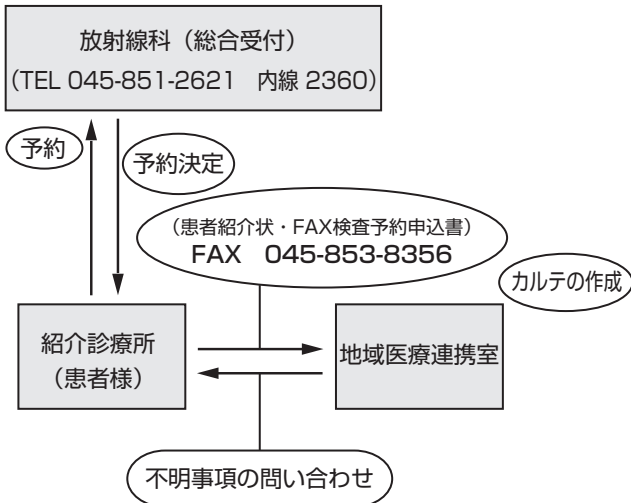
# 診察の予約紹介フローチャート

(事前)



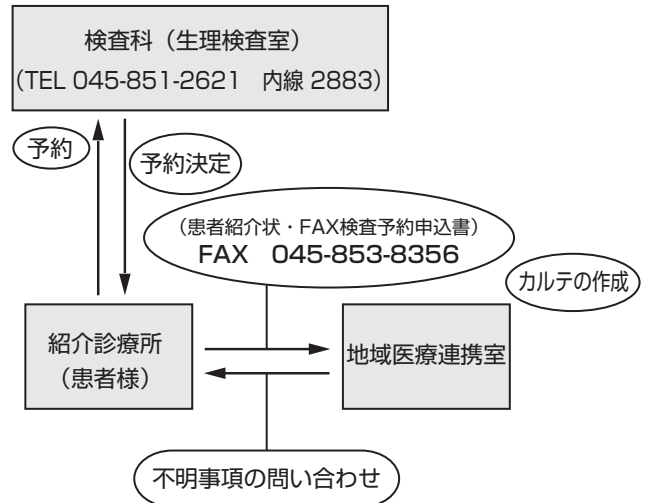
## CT・MRI・RI検査予約フローチャート

(事前)



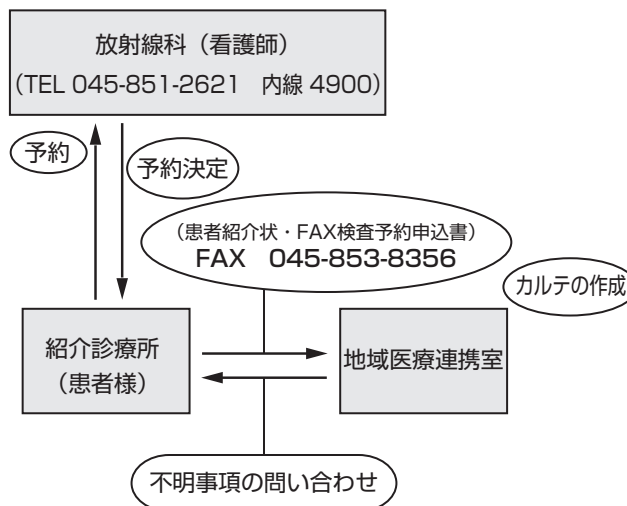
## 超音波・脳波検査予約フローチャート

(事前)



## 放射線治療予約フローチャート

(事前)



医療安全管理室から

食中毒研修会の開催

7月17日 午後1:00~2:00 第1会議室

栄養管理室では本格的な「食中毒シーズン」に入る7月17日に調理師・栄養士・委託職員・職員食堂・保育園の職員に当院検査科の久高主任に講師をお願いして「食中毒について」という題で1時~2時の1時間にわたり、研修会を実施しました。

当日は19名参加しましたが、日常業務を行う上でとても有意義な研修会でした。

内容は食中毒菌の種類や特徴等、調理上注意すべき点など細部にわたり写真や資料でわかりやすく説明を受けました。

それぞれの食中毒菌の特徴を知ることにより、食品を扱う時の留意点も違い、毎回の手洗いも頻繁となり、ていねいに業務にあたっております。

このように他部門の方に研修会の講師をお願いすることにより、自部門で行うより緊張感も増し、専門的知識も入手でき、大変有効な研修会となりました。



脳神経外科より

情報化時代における脳神経外科外来の変化とそれに付随する多くの問題について

臨床研究部長（脳神経外科医長）  
藤津 和彦

当科のホームページを参照頂くとお分かりになると思いますが、当院脳神経外科は脳腫瘍、脳動脈瘤等の脳神経外科の主要な疾患の手術では関東周辺でも屈指の実績をもっており、とくに頭蓋底腫瘍の手術では全国各地から患者さんが紹介されてきます。当科を支えて下さる各職場のスタッフと病院全体の絶大なご支援と、そして近隣医療機関からよせられる信頼のおかげと感謝しております。また最新医療機器の導入にあたって厚生局、厚生労働省の格別のご配慮にも厚くお礼申し上げますねばなりません。

さて、当科の宣伝はホームページに任せるとして、私が最近気になっていることをいくつか述べさせていただきます。まず第1にホームページに関してですが、セカンドオピニオンなどが普及し、患者さんの受診経路が大きく様変わりし始めています。近隣医療機関受診→診断医療機

関→紹介→治療目的の医療機関という従来の流れが「診断」の時点をも境として急展開することが多いのです。診断が確定すると患者さん自身がインターネット等のメディアを介して治療を受ける医療機関を選択するようになってきています。脳神経外科が専門性の高い領域と考えられているからかもしれませんが、当科の予定手術患者さんの7~8割あるいはそれ以上が後者のルートで入院されます。前医の紹介状を持参する人は半分くらいです。紹介状を持たない患者さんを私は“自己紹介患者”とよんでいます。病院機能評価に何らかの形で入れられないものかと考えます。同時にまた、当院の他科のホームページもさらに内容の濃いものにして頂く方がよいのではないかと考えています。自己紹介患者の問題1つを取りあげても明らかなように、

(5ページへつづく)

現在試みられている診療機能評価の仕組みはいかにも形式的で、患者さんの意識の変化や医療を取り巻く状況の激変に追い付けずにいます。低医療費政策とならざるを得ない経済状況は理解できますが、お金をかけずに出来るサービスや診療の辺縁作業（診療機能評価基準と目標値設定、クリティカルパス等マニュアル作成の各種委員会、アンケート調査、どれ程の意味があるか不明の研修、むしろ行政が現場を研修するほうがよほど意味がありそうです）だけが先行し、診療機能の中核となる“人、機器、建物”の枠組みが定まらない現状は、号数の決まらないキャンバスに絵を描こうとするようなもどかしさを感じます。しかもこれら作業の多くは診療とそれに付随する仕事で手一杯の医者、ナース、その他の医療従事者に押し付けられています。彼等が被るこの種の負のエネルギー負担は最近では労働条件の問題からも看過出来なくなりつつあります。医療の効率化が必要であることは分かりますが、病棟クラークを置く等、硬直化して実態にそぐわなくなった病院機構の近代化を計るとともに従来のお役所的規制を柔軟にクリアする工夫が必要でしょう。一方において少数ながらも“休まず、遅れず、努力工夫せず、勉強せず”がまかり通るような機構も改革なくしてはならないでしょう。婦長さん方が勤務表と各種報告書作成や多くの会議に精力を奪われ、臨床労務能力を低下させるようなことがあっては中堅ナースの負担が増すばかりです。またお役所に対してはイエスマンで現場に向かってはお役所の指示をそのまま“すべからず”しか言わないでいると現場が活力を失います。周囲に迷惑のかからない範囲のことは自由にさせ、部下がせっかく持っている能力をのびのび発揮させる工夫も必要でしょう。情報公開によって患者さんが主体的に医療機関を選択できる機会が増すことは大変結構なことですが同時に若干の問題も生じています。大部分の良識ある患者さんは前医にも感謝の意を示し、礼を失することのないように振舞われていますが、中には気に入った買物ができるデパートを選ぶと同じ感覚のように見受けられる無礼な人もいます。

相次いで生じた大学病院での不祥事の後にマスメディアが“医療はサービス”と発信しはじめました。医療職は特別な職業ではなく、ましてや“聖職”などではないとも言われています。

このようなバッシングに萎縮した医療従事者がその分に応じた責任を取ることを恐れ、自分の仕事に誇りをもてなくなってきているようなことはないでしょうか。コンビニストアで薬が売られ、病院経営への株式会社参入や救急救命士の挿管訓練に予定手術患者を供することが議論され、後者では、インフォームドコンセントを取れというような今の医療の一部分は少しおかしな方向に向かっているように思います。マニュアルに基づいて均質化し、医療行為の境界さえも不明瞭となりつつある状況をRoyal Host(ファミリーレストラン)Medicineと呼ぶ人もいます。果たして患者さんは満足するのでしょうか。前述の某不祥事大学病院の1つでは未だに引責退職した教授はおらず、当初約束していた専任病院長も置けず、代わりに唱え始めたのが“患者様”です。このように欺瞞ごまかに満ちた造語を真似ることはないと思います。

“入院中のexcuseのように——様”、“外来受診された——様”は心地よい響きがあります。特に医療行為を直接行わない職員がこのような言葉使いをするのは大変良いことだと思います。しかし“患者様”だけはどうしても私には馴染めません。“患者”と“様”がしっかり合わないのです。“けが人”，“障害者”，“病人”と同じく“患者”という言葉は国語学者の金田一先生が指摘されているように元来マイナスイメージを内包しており、これに“様”をつけても“気持ち悪い日本語”にしかならないのです。医療行為を行わない人が用いるのはまだしも、医療行為を直接行う立場の人が用いると“一層気持ち悪い”のです。“さん”をつけるのも理屈の上ではおかしなことになりますが、しかし日本には昔から“患者さん”という言葉が定着しています。“患者様”はいかにもよそよそしくて医療行為を行う人の責任感が削がれるような感じがし、“患者さん”の方がはるかに親しみやすく医療従事者の自覚が伝わってくるように思うのですが…いかがでしょうか。肝心の患者さんがどうお考えか一度アンケートでもしてみたらどうでしょう。



## <高脂血症が増えています!!>

健康診断の結果や主治医より、「う～ん…。コレステロールがちょっと高いねえ～」 「飲み過ぎじゃない？お酒はほどほどにネッ！！」などと言われたことはありませんか？

生活習慣病のひとつに挙げられる「高脂血症」とは、血液中の脂質（コレステロールや中性脂肪）が増え過ぎた状態をいい、動脈硬化をひきおこし、心臓病、脳卒中など多くの疾病の誘因になります。

栄養管理室 落合 由美



### ～あなたの血中脂質は正常ですか？～

	○ 正常値 ○	× 要注意 ×
総コレステロール	150～220 mg/dl	220mg/dl以上
HDL(善玉)コレステロール	40～ 70 mg/dl	40mg/dl未満
LDL(悪玉)コレステロール	80～140 mg/dl	140mg/dl以上
中性脂肪	50～150 mg/dl	150mg/dl以上



検査値が気になる方は次の項目についてチャレンジしてみましょう。

### 食事療法のポイント

- ① エネルギーは摂り過ぎないようにしましょう
- ② 脂肪の質と量に注意しましょう
  - 1) バター・肉脂等の動物性脂肪は控えましょう
  - 2) サラダ油等植物性脂肪は適量にとどめましょう
  - 3) 新鮮な魚の油はコレステロールを減らし血栓を予防します
  - 4) 牛乳や卵の摂り過ぎには注意しましょう
- ③ 中性脂肪の高い方は、菓子やジュース等糖類の多い食品やアルコールの摂り過ぎに注意しましょう
- ④ 野菜・海藻等に含まれる食物繊維はコレステロールを下げる働きがあります  
毎食片手山盛り一杯ずつ十分に摂りましょう
- ⑤ 丈夫な血管や筋肉を造る、蛋白質の多い  
魚・肉・卵・大豆製品等は毎食適量を摂りましょう
- ⑥ 塩分を控え血圧の上昇に注意しましょう



※この他にも、食生活全般についてのご相談を受け付けております。  
栄養相談をご希望の方はお気軽に主治医までお申し出下さい。

# 時節の AUTUMN 病 気

## 手関節の骨折に ついて



整形外科医長  
日塔 寛昇

### 手関節の骨折について

今年も夏が過ぎ、運動会あるいは体育祭のシーズンがやってまいりました。人によってはマラソン大会に参加したり、山登りを楽しんだりという方もいるでしょう。その際に運悪く転倒し、手をついて手関節部での骨折（橈骨遠位端骨折）を起こす方がおります。この部位は子供から高齢者まで各年齢層でそれぞれの折れ方をし、頻度の高い骨折のひとつです。多くの場合、転位があれば外来で徒手整復し、ギプスシーネをあてます。うまくいけば子供で2～4週、おとなで4～6週で固定を不要とする程度まで骨癒合します。しかし、骨折の形によっては骨がいくつかに割れて整復できなかつたり、整復できてもすぐになずれてしまうものは手術を行います。ここ15年位は創外固定器というものが普及し、手術室で麻酔をかけて整復したあと手関節をはさんで手と前腕を器械で固定するというのが比較的簡単にできるようになり、いい形で骨癒合させることができるようになりました。当院でも診療所の先生にご紹介いただき、手関節、手の難治骨折に取り組んでおり、手術室、麻酔科のご協力もいただいて、局所麻酔ならその日のうちに、全身麻酔でもできるだけ早く（翌日から1週間以内）に骨折の整復固定を行うようにしております。私も含め皆様も運動するときには、はりきりすぎてけがをしないように気をつけましょう。

## 国立病院横浜医療センター-病例検討会・研究会開催のお知らせ

### 第7回 小児疾患研究会

開催日時 平成15年11月19日(水)  
午後7時30分～

開催場所 当院大会議室

連絡先 伊部小児科医長  
045-851-2621(代)

### 西横浜整形外科症例検討会

開催日時 毎月第3木曜日  
午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 日塔整形外科医長  
045-851-2621(代)

### 横浜藤沢消化器疾患研究会

開催日時 毎月第3月曜日  
午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 小松消化器科医長・  
松島消化器科医長  
045-851-2621(代)

各症例検討会・研究会にご興味をお持ちの先生は、どなたでも参加を歓迎いたしますので、ご連絡下さい。



## ～ 女性診療外来より ～

# 女性診療外来

国立病院横浜医療センターでは「女性医師による女性受診者のための専用外来：女性診療外来」を開始して2年が経ちました。

毎週月曜日、午後1時45分から4時半まで、予約制で行っています。初診は内科医と外科医が担当し、適宜、皮膚科 婦人科 精神科、消化器科、循環器科などの女性医師につないでいます。受診者の了解があれば男性医師にも協力していただいています。

女性診療外来の内容ですが、乳房、肛門、鼠径部など男性医師の診察に抵抗がある場合に女性医師が不快感なく診察できるようにしました。また症状が更年期障害によるのか、甲状腺の異常によるのか、心臓が悪いのか、気のせいなのかかわからず何科を受診してよいかわからないような時、ご利用ください。科別に分けずに、一人の女性として、ホルモンの影響も考えて対応するようにしました。特に一般の外来では話しにくくて困る問題のとき、女性外来でご相談ください。個室で、プライバシーを守ってゆっくり話せるよう工夫しました。疾患の治療だけではなく、体調不良にどう向き合えばよいか、原因がどこにあるのかなど相談して解決に結び付けられるように心がけています。医療の範囲を超える場合、生活習慣の改善や骨盤底筋体操などの実技指導、DV対応、家庭問題などは女性フォーラムや自助グループにご紹介しています。産婦人科は本来女性専用外来ですので、産婦人科疾患、子宮癌検診はそちらで担当します。当外来には内診設備はありません。産婦人科に抵抗がある方は、一度相談の上、婦人科へつなぐことはできます。

2年間で600名の受診があり、静岡、山梨、千葉、長野など遠方からお越しになった方も多数ありました。乳腺、肛門疾患、更年期障害、子宮や卵巣疾患、ホルモン補充療法、尿失禁、いらいら、不眠、うつ、月経前緊張症、動悸感、陰部搔痒などのほか、性に関する問題、体臭、家庭内暴力までさまざまな診療内容となりました。医師同士の協力体制を充実し、受診者の方に納得していただけるよう努力しております。

外科医長  
土井 卓子



# 国立赤城青年の家研修を終えて

国立病院横浜医療センター

田尻 裕紀子



5日間国立赤城青年の家研修を終えて、いろいろな学びを得ました。特に今回の研修で、一番興味を持ったのが『再編成と独立行政法人化の講義』と『班別討議』についてです。

研修前の知識として、①独立行政法人化の病院になっても自分の病院は、つぶれることはないだろう。②大幅な赤字経営ではないだろう。③看護師には大きな影響はないだろう。と危機感をもたず、客観的にみていました。

しかし、講義で習った事は今までの考えとは異なっていました。独立行政法人化の病院になると、職員一人一人が経営に対し意識し、病院の財政を考えながら働いていかないと病院はつぶれてしまうことがわかりました。そのために、患者サービスの向上とコスト意識の向上をはかり、職員全員の意識改革をしていき、院長のリーダーシップの下、全職員の取り組みが必要です。講義で教わった

- ①無理をなくす努力
- ②無駄をなくす努力
- ③ムラをなくす努力

を当病院にも取り入れられるように病棟スタッフに伝達するよう努力して行きたいと思いました。

まず患者サービスについては、

- ①病院職員間での情報の連絡不足から患者様に不安を与えてしまっている。(例 医師が朝薬処方してくれるといったが夕方になっても処方されない。検査がいつ呼ばれるかわからない。等)
- ②看護師の仕事が繁雑で患者様のベッドサイドに行く時間が少ない。
- ③他部門と交流がなくお互いの業務内容、業務の流れを把握していないことの知識不足という問題点があります。

接遇に対するの解決策は、第一印象は6秒で決まるという事なので、明るく対応し、患者様への感謝の気持ちで接し、自分自身が病院の代表者という認識をもつことが必要です。また、し

っかり聞く事がコミュニケーションの基本でもあるので、患者様がどの様な事で困っているか、不安な気持ちでいるのかを知り、聞いたことをもとに何を話すかを考えていく事もサービス業である病院の職員に必要ということも学びました。

他部門との連携をはかるために文章のみで伝達するのではなく、講習会を開催したり、口頭で伝達し情報を共有した方がよい。また、業務内容を理解するために他部門の勉強会に参加することもよいということもわかりました。

コスト意識の向上に関しては、

- ①省エネに対する認識がうすい
- ②看護師、または医師が医療知識が少ない(何が算定できるかわかっていない)
- ③薬品関係の査定が多い

という問題点がありました。解決策として省エネに対しては病棟ごとに目標をたて、評価していくことが重要だと学びました。

物品コストに対して、すべての物に価格表示し節約につとめていく。また、処置伝にとり漏れがないように記入し、わからない事に関してのコストは事務職員に、薬品関係は薬剤師に勉強会を開催してもらい、知識を深めていくことも必要と学びました。

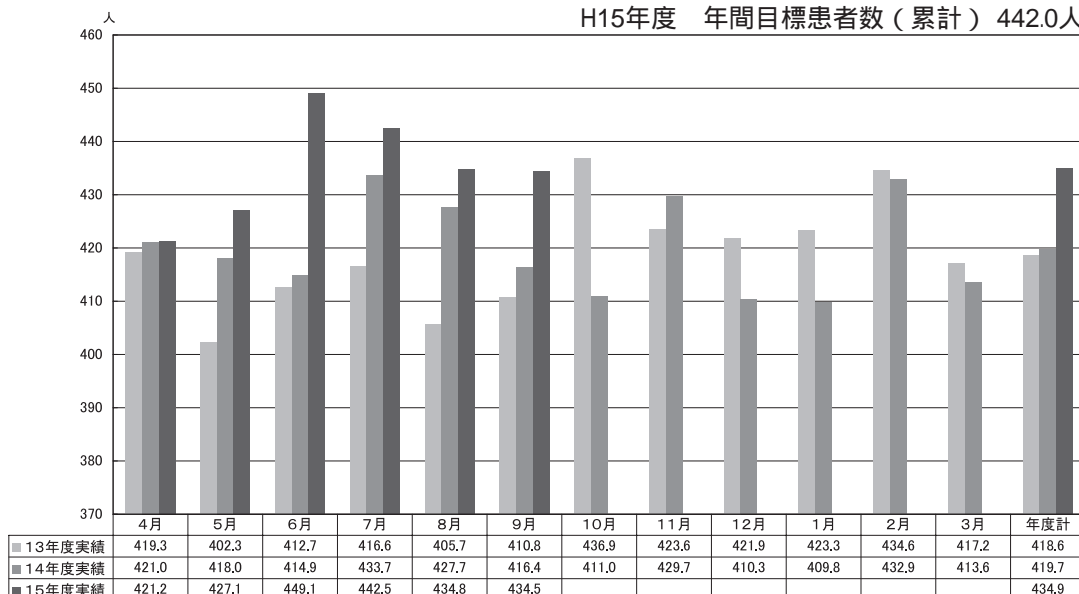
その他に、ウォークラリー、創作ダンス、キックベース、キャンプファイヤーとイベントが盛りだくさんあり、楽しく過ごせました。5日間と短期間でしたが、共同生活することでいろんな職種の方と交流が深められ、各地に友人が出来ました。このような研修は初めて参加させていただきましたが、心に残りとても有意義なものになったのでこれからも続けて欲しいです。

国立赤城青年の家研修をさせていただきありがとうございました。今回の研修の知識を自分自身の生活の中、職場の中に生かしていきたいと思えます。

# 患者数の動向

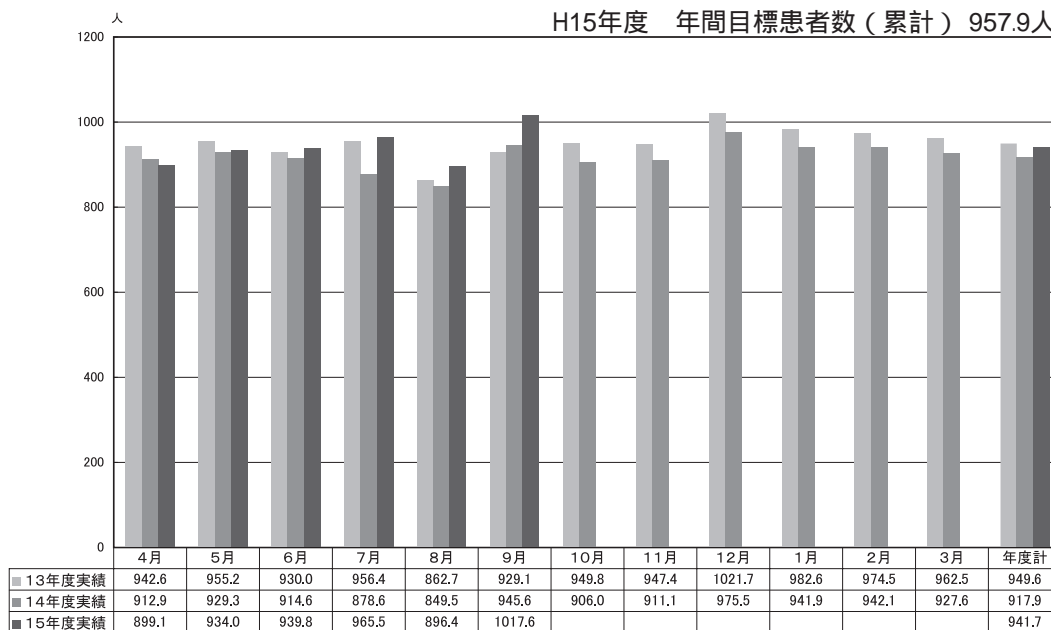
## 入院患者数年度別月別比較（H15年9月30日現在）

H15年度 年間目標患者数（累計）442.0人



## 外来患者年度別月別患者数（H15年9月30日現在）

H15年度 年間目標患者数（累計）957.9人



年度別患者数推移（1日平均）

区分	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
入院	13年度	419.3	402.3	412.7	416.6	405.7	410.8	436.9	423.6	421.9	423.3	434.6	417.2	418.6
	14年度	421.0	418.0	414.9	433.7	427.7	416.4	411.0	429.7	410.3	409.8	432.9	413.6	419.7
	15年度	421.2	427.1	449.1	442.5	434.8	434.5							434.9
外来	13年度	942.6	955.2	930.0	956.4	862.7	929.1	949.8	947.4	1021.7	982.6	974.5	962.5	949.6
	14年度	912.9	929.3	914.6	878.6	849.5	945.6	906.0	911.1	975.5	941.9	942.1	927.6	917.9
	15年度	899.1	934.0	939.8	965.5	896.4	1017.6							941.7

### 編集後記

長雨・大雨そして不作という冷夏。外国では猛暑で死亡者も出るほど。  
 29年ぶりのクラス会、お互いに年数の経過を感じつつ再会を約束。  
 目の前の琥珀をみつめ、その年の変化や現象をとりいれ、年数を経ても静かに輝いていたい  
 と思った夏の終わりの一日。  
 食欲の秋・学びの秋・読書の秋・スポーツの秋……。  
 どんな秋を楽しみますか？

（編集委員 町田 恵子）

# 国立病院横浜医療センター 外来診療担当医表

平成15年10月27日現在

診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考
総合内科・初診	交代医師	交代医師	井上優子	青木昭子	青木昭子	△:午後のみ診療 ▲:紹介状持参の方のみ
内 科	高木佐知子	多胡克哉	宇治原 誠	宇治原 誠	検査日	
神 経 内 科	桃尾隆之	検査日	△山口滋紀	桃尾隆之	検査日	
呼 吸 器 科	椿原基史	検査日	橋場友則	検査日	椿原基史	
消 化 器 科	山口尚子	塚田百合子 △小松達司(肝)	松島昭三 岸野真衣子	磯野悦子 高山敬子	小松達司	
循 環 器 科	青崎正彦 巽 藤緒	加藤丈二 岩出和徳	田中直秀	▲田中直秀	野本文子 岩出和徳	
アレルギー科	青木昭子	検査日	検査日	△井上優子	検査日	△:午後のみ診療 予約制 14:00~16:00
心 療 内 科	検査日	久保田真司・長治裕子	検査日	小澤篤嗣	検査日	完全予約制。受診希望の方は事前にお問い合わせ下さい。
精 神 科	久保田真司 長治裕子	小澤篤嗣	浅見 剛	久保田真司	小澤篤嗣	
小 児 科	伊部正明 志賀綾子	福山綾子 友野順章	伊部正明 志賀綾子	福山綾子 伊部正明	伊部正明 友野順章	
外 科	若杉純一 大田真由 (外来手術日)	西山 潔 長嶺弘太郎	◇大滝修司 急患・新患のみ (交代医師)	土井卓子 高倉秀樹	◆高橋俊毅 急患・新患のみ (交代医師)	◇:第2・第4水曜日 予約制 ◆:予約制
整 形 外 科	岡田周介 塩川健夫 加藤慎也	日塔寛昇 岡田周介 鈴木毅彦	加藤慎也	日塔寛昇 塩川健夫 鈴木毅彦	日塔寛昇 塩川健夫 茅野真子	(受付時間)初診・予約外再診とも 8:30~10:00
形 成 外 科	高瀬 税 急患のみ (手術日)	▲高瀬 税	△高瀬 税	手術日	高瀬 税	▲:外来手術日 △:手術日のため午前のみ
脳神経外科	急患のみ (手術日)	松永成生	竹本安範	急患のみ (手術日)	藤津和彦 橘田要一	
心臓血管外科	東館雅文	手術日	検査日	大野英昭	東館雅文	
皮 膚 科	脇田加恵 嶋村祐美 田辺健一	脇田加恵 嶋村祐美 田辺健一	脇田加恵 嶋村祐美 田辺健一	脇田加恵 嶋村祐美 田辺健一	脇田加恵 嶋村祐美 田辺健一	
泌 尿 器 科	本田直康	本田直康	手術日	黒坂真二	本田直康	
産婦人科	婦 産 中村秋彦 糸数 功	鈴木良知 外村光康	糸数 功 鈴木良知	▲中村秋彦 糸数 功	外村光康 中村秋彦	▲ 第1・3・5週。第2・4週は検査日。
眼 科	設楽幸治 森 旅宇子	設楽幸治 森 旅宇子	設楽幸治 森 旅宇子	設楽幸治 森 旅宇子	急患・初診のみ (手術日)	(受付)初診・予約外再診とも 月~木曜日 8:30~10:00 初診のみ 金曜日 8:30~ 9:30
耳 鼻 咽 喉 科	山田昌宏 花村英明	山田昌宏 今井君子	手術日	花村英明	山田昌宏 花村英明	
放 射 線 科	栗原須生美 ※注①	金原一弘 ※注②	日下部きよ子 (甲状腺外来) ※注③		金原一弘 ※注①	※注① 月・金曜日 8:30~11:00 ※注② 火曜日 13:30~15:00 ※注③ 診察日は放射線科にお問い合わせ下さい。
歯科口腔外科	塩入重彰 飯嶋 亨	塩入重彰 飯嶋 亨	手術日	塩入重彰 飯嶋 亨	塩入重彰	新患(紹介状を持参して下さい)は、火・木曜日の午前(8:30~11:00)。その他は再診(完全予約制)
小児科	発達(福山) 神経(筑丸) ※第4週	感染免疫 (伊部) 腎(中村) ※第1週	予防接種 (志賀・友野)	乳児検診 (福山・友野)	喘息 (伊部・志賀) 循環器(瀧間) ※第3週	
外科		乳腺外来(超音波検査) ※注④		乳腺外来(乳癌検診) ※注⑤		※注④ 乳腺炎、乳癌など乳腺疾患全てを対象としています。受診希望の方は事前にお問い合わせ下さい。 ※注⑤ 横浜市乳癌検診の受付:13:30~15:00
専門外来(午後のみ)	女性診療外来 ※注⑥	癌化学療法外来	ストーマ外来 ※第2週	癌化学療法外来		※注⑥ 担当医:土井、青木、脇田、磯野、山口 女性医師の診察を希望される方は、科にこだわらず受診できます。なお、女性診療外来日以外に、皮膚科では月~金曜、外科では木曜に女性医師が担当しておりますので、こちらの方もご利用下さい。
産婦	母親教室			母乳外来		
耳鼻	補聴器外来 腫瘍外来	アレルギー外来		補聴器外来	学童外来	
アルコール					交代※注⑦	※注⑦ 第2・3・4・5週:米田 13:30~ 完全予約制
循環		ヘルスメーカー外来 ※注⑧				※注⑧ 第2・4週火曜日午後 必ず事前に連絡して下さい。

初 診 受 付:平日8:30~11:00  
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり  
再診(予約外)受付:平日8:30~11:00  
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり  
休 診 日:土曜・日曜日・祝日・12月29日~1月3日

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)  
※紹介状をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。  
※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月~金 8:30~17:00)  
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)  
FAX 045-853-8356

## 《表紙》

当院において戸塚医師会、戸塚区役所、戸塚警察署、戸塚消防署との5機関共催による「第4回救急・災害医療フェア」がH.15.9.11.に開催され、多数傷病者発生時の受け入れ施設・連絡体制等について、活発に討論されました。

## (写真右)

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ所で江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。

又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠や遊廓等が点在していました。

